

三菱重工業の目標とKPIの進捗状況について

No	コア・インパクト	目標	KPI	2023年度実績
A	脱炭素社会に向けたエネルギー課題の解決	・事業活動におけるCO ₂ 総排出量(Scope 1、2)を2030年までに50%削減し(2014年比)、2040年にNet Zeroを達成する。	・事業活動におけるCO ₂ 総排出量 (Scope 1、2)	・532,000t-CO ₂ (2014年比44%削減)
		・三菱重工グループのバリューチェーン全体のCO ₂ 排出量(Scope3+CCUSによる削減貢献)を2030年までに50%削減し(2019年比)、2040年にNet Zeroを達成する。	・バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量(Scope3+CCUSによる削減貢献)	・850,169kt-CO ₂ (2019年比38%削減)
B	環境負荷の低減	・水使用量原単位を2014年度比で2023年度までに7%改善(水は工業用水、上水、地下水、河川水、湖水とし、海水は除く)	・水使用量原単位	・0.142 (2014年度比43.6%削減)
		・廃棄物排出量原単位を2014年度比で2023年度までに7%改善(ただし、有価物を除き、有害廃棄物を含む)	・廃棄物排出量原単位	・1.50 (2014年度比42.8%削減)
C	AI・デジタル化による社会の変革	・顧客課題解決に対応する高度なAI・デジタルソリューションの新規開発件数(サービス、製品、R&D)を段階的に引き上げる。	・顧客課題解決に対応する高度なAI・デジタルソリューション開発の取り組み状況	次世代無人フォークリフト（ΣSynX）プロトタイプ機の基本性能を確認し、YHH(Yokohama Hardtech Hub: 三菱重工が横浜・本牧で運営するものづくりの共創空間)で自動ピッキングソリューションの実証を実施している。また、知能化物流システムの開発を継続している。 ・海運向け省人化システムの開発を推進している。 ・産業機械の知能化運転システムの開発を推進している。 ・社共通研究で先進的な研究開発に取り組み、その成果をSBUに横通し展開して、SBUのAI・デジタル製品/サービス等のソリューションの開発を促進している。
D	安全・安心な社会の構築	・製品・事業/インフラの遠隔/自動運転、遠隔/自動検査・点検に向けた技術開発、実用化を推進する	・製品・事業/インフラの遠隔/自動運転、遠隔/自動検査・点検に向けた技術開発、実用化の取り組み状況	・NTTと共同で低遅延映像伝送技術によるフォークリフトの遠隔操縦性を確認した。 ・自動運転社会の実現に向け、高速道路における路車間通信（ICT通信機能を有するコネクテッド車両とインフラ設備の無線通信）システムの検討に着手した。 ・防衛装備品の無人機化開発を推進している。 ・フェリー荷役省人化システムを開発している。 ・艦艇向け監視プラットフォーム（ΣSynX Supervision）を納入した。 ・ごみ焼却プラントの遠隔監視・運転支援システム（MaiDAS®）を実機検証し、主要学会で発表した。 ・紙工機械知能化運転システムの開発を推進している。 ・プラント配管検査ロボットを開発している。 ・プラント巡回点検防爆ロボットをENEOS社と共同で開発している。
E	ダイバーシティ推進とエンゲージメントの向上	・2030年までに役員*に占める女性比率を30%以上にする。 *日本の会社法における取締役・会計参与・監査役	・女性役員比率(単体ベース)	・16.7%
		・2030年までに管理職に占める女性比率を2倍(2021年度比)にする。	・女性管理職比率(連結ベース)	ポジションごとの女性比率 ・課長職：4.5%(2021年度比0.95倍) ・部長職：3.3%(2021年度比0.97倍) ・役員*：4.3%(2021年度比0.95倍) *執行役員を含む
F	健康経営®の推進	・定期健康診断受診率を毎年100%にする。	・定期健診受診率	・99.4%
		・人間ドック受診率を毎年50%以上にする。	・人間ドック受診率	・61.5%
		・喫煙率を毎年23%未満にする。	・喫煙率	・21.4%

※健康経営®は、特定非営利活動法人 健康経営研究会の登録商標